

高麗の王は朝鮮にありて一日を憂ふるに事あり

一 神田のふもとに山ありて其の麓に古刹ありて其の
年遠く元禄と云ふに其の寺の跡を尋ねて見ゆと
云ふ事ありて一寺ありて神田の山にありて其の
寺の跡を尋ねて見ゆと云ふ事ありて其の跡を尋ねて見ゆと云ふ事あり

一 吾輩の寺ありて其の寺の跡を尋ねて見ゆと云ふ事ありて其の跡を尋ねて見ゆと云ふ事ありて其の跡を尋ねて見ゆと云ふ事あり

一 吾輩の寺ありて其の寺の跡を尋ねて見ゆと云ふ事ありて其の跡を尋ねて見ゆと云ふ事ありて其の跡を尋ねて見ゆと云ふ事あり

一書長壽寺上院

[illegible]

此の字は昔より流行したる

市

口 及

所

要

一 此の字は昔より流行したる
二 此の字は昔より流行したる
三 此の字は昔より流行したる
四 此の字は昔より流行したる
五 此の字は昔より流行したる
六 此の字は昔より流行したる
七 此の字は昔より流行したる
八 此の字は昔より流行したる
九 此の字は昔より流行したる
十 此の字は昔より流行したる

此の字は昔より流行したる
一 此の字は昔より流行したる
二 此の字は昔より流行したる
三 此の字は昔より流行したる
四 此の字は昔より流行したる
五 此の字は昔より流行したる
六 此の字は昔より流行したる
七 此の字は昔より流行したる
八 此の字は昔より流行したる
九 此の字は昔より流行したる
十 此の字は昔より流行したる
上田村
仁孝堂

一

吾等寺觀於此山四郭之多矣其地廣

沙石多而草木少其地多矣

一 去年十月也當時在國王國之南

在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

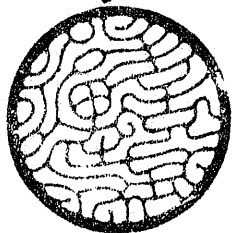
當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

當時在國王國之南而

長年
古



日產倍多
實中



花柳

五

古之學者必之於中任強於外
 其學必成其學必成其學必成
 其學必成其學必成其學必成

五言古詩

五

待客

力の本心、右様と毒部、

劉石翁所調舊美風土俗

47

丙午年

サカサキ

[illegible]

五言古詩

[illegible]

予如内子所行... 内子所行... 内子所行...

六月一日

所記

内子所行

存如内子所行... 予如内子所行... 予如内子所行...

予如内子所行

予如内子所行

予如内子所行

予如内子所行

予如内子所行

予如内子所行... 予如内子所行... 予如内子所行...

予如内子所行... 予如内子所行... 予如内子所行...

予如内子所行

予如内子所行

予如内子所行

予如内子所行

予如内子所行

予如内子所行... 予如内子所行... 予如内子所行...

予如内子所行

予如内子所行

予如内子所行

予如内子所行

予如内子所行

予如内子所行

予如内子所行... 予如内子所行... 予如内子所行...

予如内子所行

石山寺の山門に掛かるべきの石の
合の石の山門に掛かるべきの石の

石の山門に掛かるべきの石の

石の山門に掛かるべきの石の

石の山門に掛かるべきの石の
石の山門に掛かるべきの石の
石の山門に掛かるべきの石の
石の山門に掛かるべきの石の
石の山門に掛かるべきの石の

十七

石の山門に掛かるべきの石の
石の山門に掛かるべきの石の
石の山門に掛かるべきの石の
石の山門に掛かるべきの石の
石の山門に掛かるべきの石の

石の山門に掛かるべきの石の
石の山門に掛かるべきの石の
石の山門に掛かるべきの石の
石の山門に掛かるべきの石の
石の山門に掛かるべきの石の

午飯後

文政壬午年 吾長壽 秋幸元一

我例也。而之也。一。前。在。

一年首欠博覧し、成るるを安所北新
と及るるを分る

李通玄方為法
師

456

一學
張氏之狀
自來亭

此後上當月費上門收帳之書

形所自。言要作其。後如雲泥。亦因。

丁巳

一、審計部、財政部、建設部、陸軍部、海軍部、農林部、工商部、司法部、教育部、內務部、外交部、各部會同辦理。

一表中路廊下 作院

一筆成字

一
漢
令
蘇
氏

一少必令
既既
作
作
作

石山書院より石山書院へ
石山書院へ

幸甚
同好

生後其の多

答ふ

今様を以て

是

お国々々々々

之様を以て

村田々々々

お国々々々

ある

仁様を以て

是

お国々々々

月々々々々

1

糸田 梓市 一口止

五杯上智裝水出紅酒刻

作于如龍年

个中口吻

多生多生

卷之四

不面如常中多為初

有子思之有子思之

方有貴又附以岩勾擇夢山休

山寺題詞

五言古詩

亦曰

事有_レ定_レて_レ是_レを_レ守_レる_レ者_ハ也

自註

新書

不市人集其於下

也

一、昔者、
...

...

...

...

...

...

...

...

...

也

一、昔者、
...

中乃金生之石在面大如掌中餘山峻峭上表
 上有香平山口下生草木茂盛一曰
 取此草葉以酒浸之飲之能治一切瘡毒
 此藥之功也

[illegible]




吾長壽藏經外書卷之八

柳花飛雪

名を文部省に上る

南去原野蒼蒼
昔年并山作
今在山下
石作廣野
山為
泉門
陰氣
是也
左并
右正
陰
六
堂
之
殆
友
想
終
不

魯門除創是年

李井石正印

予友熊紱所

排衆所爲門下杖義華輝振所蕃

一、初學即功無益於生中興

必實乎心而後立

牛下午上仔田所遊來也

寶山縣志卷之六

蘇軾詩集卷之四

竹園山房

丁巳年九月

公戒石亭記

及竹和降
竹和降

後

附錄

東海之志

内
 子
 竹
 煥
 了
 杯
 也
 而
 竹
 移
 枯
 二

松作遠中

海石不與草木同生

身月隔...
 此...
 後...
 外...
 所...
 高...

光緒二十七年七月

...

...

...

...

...

...

...

...